

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

下校中に地震が発生。児童・生徒は通学路上で「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」か、周囲を確認し、その後、学校へ引き返す。

教員は校庭で児童・生徒を迎え、点呼を取り、安全確認を行う。

【A-ア】登下校中

【C-(3)-ア】防災教育副読本「地震と安全」を活用し、安全な避難行動を確認

1 時間・場所等

校門を出て5分した場所で地震が発生する設定。地震後、児童・生徒は学校に戻る。(計15分間)

2 避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

時間等	設定状況等	児童・生徒の動き等	教職員の動き
下校前の学級指導	<ul style="list-style-type: none"> ●事前学習として、本日の下校中に地震が発生した場合の避難訓練を実施することを予告する。 ●揺れは、震度6弱(立っていることが難しい)が、10秒程度続くという設定 	<ul style="list-style-type: none"> ●校門を出て、5分後に地震が発生する想定。その場所に相応しい避難行動について、具体的に想定する。 ●「地震と安全」に記載された登下校中に地震が発生した場合の注意事項を確認しておく。 ●小学生については、通学路のどのあたりにいるか、地震発生時の目標物(例えば歩道橋の周囲等)を想定させておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校便り等に、下校中の避難訓練を実施することを掲載する等、保護者・地域住民等に本訓練の周知と協力を依頼する。 ●児童・生徒の発達の段階や、学校周辺の通学路の状況を踏まえて下校中の避難行動の訓練場所を設定することを指導する。 ●集団下校中の地震発生を想定した訓練を行う場合は、登校班のリーダーの児童・生徒に個別指導を行い、配慮事項について確認する。
校門を出て5分後	<ul style="list-style-type: none"> ●通学路で地震が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」空間か瞬時に確認し、避難行動(頭部を守る)を取る。10秒程度で揺れが収束したあと、慌てることなく学校に向けて歩きだす。交通事故に注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●担任教員は、校庭で待機する。 ●校内の状況を把握する。 ●担任以外の教員は、通学路途中まで出迎える。 ●参集してきた児童・生徒の点呼を行う。
地震発生から5分後	<ul style="list-style-type: none"> ●校庭で点呼を取り、児童・生徒の安全確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校庭に学級ごとに参集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●担任教員は、校庭で待機する。 ●担任が不在の学級を敢えて設定し、担任業務を代行する別の教員を用意しておく。 ●不在の児童・生徒を把握する。欠席・遅刻の場合も考慮しつつ、安否確認を行う。
地震発生から10分後(5分間)	<ul style="list-style-type: none"> ●講評【全校一斉指導】 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の避難行動と、地震直後に道路を通行する際の留意点を確認する。 ●大きな地震が発生した際は、学校に戻ることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●特に以下の点について講評・指導する。 <ol style="list-style-type: none"> ①下校途中で大きな揺れがあった際の避難行動について確認すること ②地震で動揺して走り出すことの危険性について触れる。特に、交通事故に遭わないように注意すること。

※ 特別支援学校におけるスクールバス通学の際は、運転手と事前に十分に打合せを行う。

※ 幼稚園の場合は、事前に丁寧に訓練の主旨や設定を保護者に説明し、協力を求める。